

第 34 回(令和 5 年度)実技試験「読取り通訳」問題 要旨

【第 1 問】

テーマ：手話の二重分節性

場 面：手話講習会での講義

話 者：ろう講師

手話はジェスチャーと同じだと思われていますが、言語学の研究で、言語として証明されています。人の言語には「二重分節性」が備わっています。文は語から成り、語は最小単位の「音素」から成ります。これを「二重分節性」といいます。音素は、手話の場合は「手の形」「位置」「動き」が該当し、この 3 つが語を作ります。ギャローデット大学のストーキーが、手話に「二重分節性」が備わっていることを証明したことで、手話はジェスチャーとは異なる、言語である、ということが明らかになりました。

【第 2 問】

テーマ：緩和ケアについて

場 面：聴覚障害者協会の講座

話 者：がん治療中のろう者

11 年前、乳がんが見つかり、乳房を全摘。抗がん剤治療をし、その後、仕事に復帰しました。8 年後、首と肩に転移したことがわかりました。肩の痛みは五十肩だと思っていたのでショックでした。抗がん剤治療に伴う苦痛に対して、医者から「緩和ケア」を勧められたのです。もうなすすべもないのかと思いましたが、がん治療をスムーズに受けたり、精神的なサポートをしてくれたりするのが緩和ケアだと知りました。抗がん剤治療も無事に終了し、今は、乳腺科と緩和ケア科にかかっています。